

視点・論点

12月定例会

12月定例会において、各常任委員会及び特別委員会で議論となったものを各委員長がまとめたものです。

総務委員会

総務委員会に付託された六案件のうち、特に議論になったのは「公益法人等への職員の派遣等に関する条例の制定について」の議案で、公益法人へ市職員を派遣することができなくなるために制定される条例です。文化スポーツ振興公社を公社のまま運営するために本人の同意に基づき三年を限度とし市職員を退職し公社採用の職員とするものです。その際職員に対して格差是正についての説明を十分にすること、また理事会への説明の時期、プロパー職員を雇用しない経緯などの議論を行った。図書館は公社運営から直営に変わりますが、事業については影響はありません。また、補正予算では春日北小学校校舎増築工事が実施される件で設計管理委託料が当初金額より三倍近く増額になったものがなぜそのまま随意契約を進めることになるのかなどを議論し、入札による契約へ変更するに至った。

文教委員会

委員会に付託された人事案件一件と請願一件について、審査を行いました。

「教育委員会委員の任命」については、執行部から、国が示した目標に沿って、学識経験者だけではない、保護者や一般市民からの人選を行ったとの説明を受け、全員が中野仁美氏の再任に同意しました。

「就学援助の充実を要請する意見書の提出に関する請願」については、地方自治体が適用する就学援助について、そのすべての件数に對して国が補助すること及び、アトピーなどアレルギー性疾患を学校病に指定することについて、国への意見書の提出を求める内容でした。長引く不況のもとで倒産や失業が増加し、就学援助を申請する家庭がふえている中、国の補助が毎年削減されている状況などを資料をもとに審査し、全員が採択することに賛成しました。

厚生委員会

議案五件、継続審査中の決算関係議案四件の審査を行った。「平成十二年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定」は、歳出決算額六一億六、六九二万二千元、実質収支額は一億六、七二〇万四千円の黒字決算だが、一般会計からのその他の繰入と繰越金を差し引くと、単年度では実質二億七、二六八万九千円の赤字決算。被保険者数は二万七、八〇〇人、収納率は九〇・六六％。不納欠損額は七、七九三万円、収入未済額は九億二、一二八万八千円。その回収が課題で収納率向上対策事業を推進中。「平成十三年度国保特別会計

補正」では、医療費の増加により、一億五、〇〇〇万二千元を増額し、六七億八、二四九万八千円となった。「平成十二年度老人保健医療事業特別会計歳入歳出決算認定」は、歳出決算額は六一億七、八八九万一千円であり、前年度に比べ介護保険導入による影響のため六億八、五二七万五千円減額している。

建設委員会

付託を受けた議案のすべてを可決することに全員が賛成しました。「公の施設の設置及び管理に関する条例」の改正は開発行為に伴い設置された公園を大牟田第四児童公園として管理するためのものです。「都市公園条例」の改正は上白水に設置された「四季のみち緑地」の完成により市で管理するための条例です。両議案については、現地調査を行い全員が賛成しました。



四季のみち緑地の現地調査を行う建設委員会

なお「四季のみち緑地」は死角になる場所が多いため管理には特に注意を要望しました。

「都市開発資金特別会計補正予算」は購入に関する契約の締結により予算の減額であり全員が原案に賛成しました。「駐車場特別会計補正予算」は使用料の減額を主な内容とするもので委員会では駐車場の利用促進について周辺住民との懇談会の開催などを要望し全員が賛成しました。他の一件についても全員が賛成しました。

決算審査特別委員会

本委員会に付託を受けた「平成十二年度一般会計歳入歳出決算認定」について、議会閉会中に四日間にわたり審査を行った。

平成十二年度決算は実質収支額においては黒字決算となり、前年度の実質収支額を除いた単年度収支額も黒字になっており、採決の結果、賛成八名、反対一名の賛成多数で本議案を認定した。

審査の過程では、市税の収納率向上の抜本的対策の必要性、保育所・公民館等の老朽化対策、中小企業事業資金融資事業について市内業者への周知徹底などについて意見が出され、歳入における不納欠損については、今後とも解消に向けてより一層の研究・努力をすよう執行部に要望した。